

交流1 交流2 社会科 2月9日(金) 交流3

小単元名 世界の未来と日本の役割

めあて JICA はどのような取り組みをしているか調べよう



独立行政法人国際協力機構（JICA）バングラデシュ事務所からオンラインゲストティーチャーをお迎えし、JICAの取り組みについてお話していただきました。

バングラデシュとの時差は3時間、早朝からご対応くださっているため日本からの遠さを実感しますが、実はお子様が鶴二小の卒業生で日本の家はみんなのご近所ということで親近感をもった子供たち。JICAの取り組みについてのわかりやすい説明と、ゲストティーチャーへの質問で語られた体験談に、引き込まれていました。

前半のお話と質問タイムのあとは、班で開発途上国への国際協力について話し合い、発表しました。その話し合いもオンライン状態にして聞いていただきました。みんなが国際協力は必要と話している中、それに批判的な意見もありました。ゲストティーチャーは一人一人の意見に丁寧に答えてくださいました。国際協力の必要性や、国際協力をする側としての大切な心構えを話していただき、子供たちは共感的な理解につなげることができました。

ゲストティーチャーに聞いてみよう



Q なぜ JICA に入ったのか？

A 人の役に立つ、公共的な仕事をするのが夢だった。学生時代に行ったインド旅行で、大変な思いをしたが、現地の方に助けられたことも影響した。

Q 現地で大変なことは？

A すぐなんでもできる日本と違って、申請してもすぐに発行されない、どこに行くにも渋滞して時間がよめないこと。（渋滞は環境問題、経済損失を生み出している）

Q 仕事のやりがいは？

A インフラ整備の計画段階からかわり、10年後完成した時に人々がとても喜んでくれていると、人の役にたてたと実感する。（インドでは用水路、バングラデシュではダッカメトロの計画に関わっていた。）

Q 日本と違うところは？

A 日々驚くことばかりだが、人と人の関係や時間の感覚、考え方が全く違う。それが興味深いところでもあり、国際協力をする側として理解をしないでは進められないところでもある。

交流1 交流2 交流3 社会科 2月27日(火)

小単元名 長く続いた戦争と人々の暮らし

めあて 戦争を経験した人の話を聞いて、戦争に対する自分の考えをもとう。



今まだなお続くロシア・ウクライナ戦争。日本にも多くの方が避難してきています。そのお一人にきていただき、戦争を知らない子供たちに、ウクライナで体験したことや平和のために日本で行っている活動について話をしていただきました。

戦争がなぜ起こるのか？戦争を始める重要な理由はあるのか？と子供たちに問いかけることからお話が始まります。そして、子供たちの身近なけんかを例えにあげ、平和的に解決するには、意見の違いを話し合ったり、相手の考えを認めることが大切と伝えてくださいました。それを踏まえて、ウクライナの現状や戦争による環境破壊や食料問題などにも触れ、この戦争が引き起こす結果がどれだけのものかを語ってくださいました。

最後に戦争に対してどう思っているのか、子供たちと意見を交換しました。戦争の実情を知らないまましていると、戦争は簡単に起こってしまいます。また、自分はしたくなくても侵攻されて戦争に巻き込まれてしまうことがこの世界には実際にあるということを、他人事ではなく自分事として受け止めて平和を維持して欲しいと切に願います。

ゲストティーチャーからの質問

戦争についてどう思いますか？



先導している人の考えが変わるとよいと思う。

戦争に勝ったとしても真の平和ではないのでは？

よくない。輸出入も止まってしまうお互い損をする。

他の国にも影響があるからやめた方がよい。

友達の発言を聞きながら深く頷いている子が多かったのが印象的でした。最後は、ゲストティーチャー本人のことやウクライナについての質問もありました。実はこの日の給食は、栄養士の先生による授業連動企画でウクライナの伝統料理「ボルシチ（スープ）」と「パンプーシュカ（ガーリックオイルを塗ったパン）」で、その話題もあがりました。授業終了時には、辛い経験を話してくださったゲストティーチャーに感謝の気持ちを述べていました。小単元開始時と比べ、戦争を深く考えられるようになった子が増えたようです。他国の文化を知り、理解することも戦争防止には大切なことなど、聞いたことをしっかりと受け止め自分事としていることが、授業後の感想に現れていたそうです。



聞いた知識をどう活かすか考えよう

この小単元の最後の時間は、これまで学んだことを振り返り、今の自分にできることは何か、どうやって活かすのかを考えるということで、取材に行きました。意見出しでは、ジャムボードのスペースを自分たちの意見であつというまにいっぱいしていました。自分のなかに確固とした考えがあるのだと頼もしく思いました。今後もぜひ平和の維持のために考え、行動し続けてほしいです。



もう戦争が起きないように、伝える・広める

今起きていることをもっと知る・調べる

下級生や小さい子世代に伝える

関連するものへ募金をする

原爆ドームに行ってみる